

明日も10年後も「えーひだ」



えーひだカンパニーの挑戦 特集 ここで生きる

地域の未来のため 住民が株式会社を設立

比田地区（比田・東比田・梶福留）で今年3月に住民有志が地域運営組織「えーひだカンパニー株式会社」を立ち上げました。住民らで策定した将来の設計図「地域ビジョン」実現に向け、生活、福祉、観光、産業など多岐にわたる分野で組織的に地域づくりを行います。

地域消滅への危機感

安来の最南端に位置する山あいの町・比田地区は、標高300メートルの盆地に1084人が暮らしています。市内最高峰の猿隠山の麓では柵田が美しく並び、四季折々の表情を見せてくれます。また、金屋子神社やその門前町として栄えた西比田の町は日本遺産群に認定されるなど歴史と自然を有する地区です。

比田地区でも少子高齢化が進行しています。平成29年9月30日現在の高齢化率（人口に対する65歳以上の人の割合）は48・7%と市内一高く、1975年に2千人近くいた人口は半減し、人口予測サイトでは25年後に5

00人を割り込むとの試算が出ています。

「このままでは地域がなくなってしまう」。地域では危機感が募り、平成27年6月に住民で「いきいき比田の里の活性化プロジェクト」を立ち上げました。プロジェクトのテーマ

えーひだカンパニー株式会社

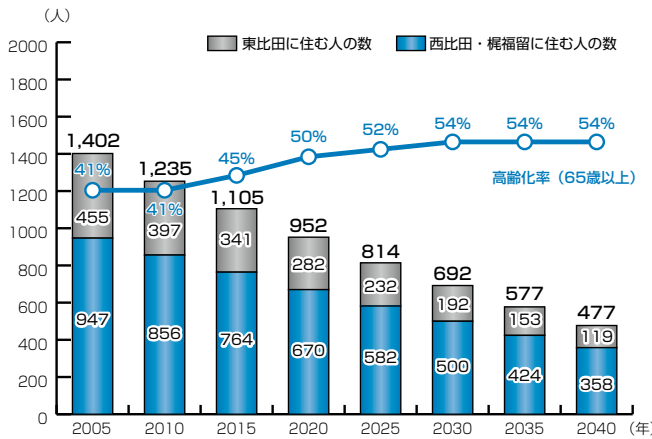
- ・設立 2017年3月1日
- ・代表取締役 川上義則氏
- ・構成員 74名（設立時）
- ・経営理念
自治機能と生産機能の発揮による地域ビジョンの実現と「えーひだ」の創造

設立総会の様子





比田地区の人口シミュレーション



出典：しまねの里づくり応援サイト

～ 比田地区 ～

人口 1084人
 (内65歳以上・・・528人)

高齢化率 48.7%

※平成29年9月30日現在

自立した地域づくり

地域ビジョンは策定するだけでは意味がありません。この

は、10年後も「えーひだ(日だ)」と話せる地域体制の構築。世代別ワークショップや住民アンケートを行い、1469個の地域活性化のアイデアが出されました。そこから88個へ磨き上げ、将来の設計図となる比田の地域ビジョンを策定しました。

「一般的な株式会社は株主利益を最優先しますが、私たちは比取締役の小田ちさとさんは、社員は地区に住む74人。平均年齢は46・2歳(設立時)と若い人が中心で、ほとんどが本業を持ちながら仕事後や休日など空いた時間にカンパニーの事業を展開しています。」

「10年後も「えーひだ(日だ)」と話せる地域体制の構築。世代別ワークショップや住民アンケートを行い、1469個の地域活性化のアイデアが出されました。そこから88個へ磨き上げ、将来の設計図となる比田の地域ビジョンを策定しました。」

田住民の幸せ追求のために事業を実施します」と力を込めます。カンパニーでは2つの特徴的な経営理念を掲げています。一つ目は行政だけに地域づくりを任せず、自ら地域づくりに参加すること(自治機能)、二つ目は自治機能を発揮するために必要な財源を生み出していくこと(生産機能)です。二つの機能を最大限に発揮するために選択したのが株式会社だと小田さんは話します。

「社会的信用の向上、地域の雇用の安定のため、法人化を目指し、多岐に渡る地域ビジョンが制限なく実施できる株式会社を形態を選択しました。株を發行することで資金調達が可能となり投資が出来ます。また、カンパニーの活動へ参画できない人も株式の取得で支援・参画が可能となります。カンパニーは社員の奉仕精神に頼らずに利益を生み出すことで、将来に渡り持続可能な組織にしたい。」

地域おこし協力隊がカンパニー創設の原動力に

カンパニー事務局に勤務するのが取締役で地域おこし協力隊の小田ちさとさんです。京都府出身の小田さんが比田にきたのは平成27年3月。「初めて来たのになつかしく感じた」と比田を気に入り、2カ月後には移住していました。カンパニーの各事業の推進やイベント企画・運営に携わり、比田の地域行事などにも積極的に顔を出します。カンパニーの川上義則社長に「彼女のがんばりがカンパニー創設につながった」と言わせるほど信頼も厚い。「比田は支え合い・思い合いの心が根付いている魅力的な地域。比田をもっとよくなりたい」と地区とカンパニーを支えています。



えーひだカンパニー株式会社
 小田ちさとさん
 (地域おこし協力隊)

カンパニーの取り組み



カンパニーでは、産業振興・生活環境・地域魅力・定住推進の4つ事業を柱としています。7つの部に部長、事業毎に課長・課員を配置。また、最高決定機関として株主総会を年1回開催し、地区住民の意見を取り入れます。

稼ぐ！産業振興

(比田米プロジェクト部、ひだガーデン部、ひだキッチン部)

カンパニーの収益を支えるのが産業振興部門です。比田は農業が基幹産業です。猿隠山の麓では傾斜を利用した広大な棚田



を見るができます。飯梨川の源流から流れる清らかな水と昼夜の寒暖差によつておいしい米が育まれています。

この地区自慢の米を一般の買取価格より高値で買い取り、等級をつけてブランド「比田米」として販売します。

事業は米の生産だけではなく、育苗事業や田植え・代かき・稲刈りの各種農作業受託、小型無人飛行機「ドローン」を使った病害虫防除作業、種取り大根栽培など多チャンネルで収益を確保します。また、小麦、そばの二毛作に挑戦し、比田産小麦でつくったパンやドレッシングなどの加工品の開発にも取り組みます。

比田米プロジェクト部次長・柴田俊夫さんは「これまで各農家が地区外に委託していた仕事をカンパニーが請け負い地域へ

比田米

特色ある米作りで「比田米」をブランド化

比田米のブランド化をけん引するのが柴田俊夫さんです。米・食味鑑定士協会が毎年行っている米・食味分析鑑定コンクール国際大会で、約7千人中から100人ほどしか選ばれないベストファーマーに認定されています。ベストファーマーに選ばれるには、味を表す指標、食味度・味度ともに85点以上が条件で、さらに炊飯し審査員の味覚による投票を経て選ばれます。

柴田さんは、味だけでなく農薬や化学肥料を極力使わない独自の栽培方法で安心安全な米の栽培に



比田米プロジェクト部次長 柴田俊夫さん

も取り組んでいます。カンパニーではこの米を比田米ブランドの最上級クラス「比田米プレミアム」として販売しています。現在、柴田さんの指導を受け、地区内農家4人が同じ方法で米作りを始めています。柴田さんは「米の消費は落ちていますが、手間ひまをかけて特色のあるおいしいお米をつくれれば売れます。比田で全国各地に負けないブランドをつくりたい」と抱負を語ります。



**カンパニー
 応援します**



田邊亮さん
 (松江市在住)

比田でデイサービスし
 のめを経営しています。比
 田は祖母の家があり、子ど
 もの頃から慣れ親しんだ地
 域です。カンパニーの応援
 として出産祝い品の提供や
 株の購入をさせていただき
 ました。人と人とのつなが
 りの強い比田の特性を生か
 した、住民主体の取り組み
 に大いに期待しています。

今はなんとか地域がま
 わっています。誰も地域
 の将来へ不安はありません。
 その中で若い人たちが私た
 ちが考えつかないような新
 しい取り組みで地域に光り
 を当てています。これから
 を担う若い世代が自ら動き
 出したことは意義がある。
 微力ですが私もカンパニー
 の活動を応援したい。



田邊順通さん
 (東比田地区)



提供します。カンパニーが事業
 を行うことで、農家にとって作
 業・コスト削減、収益増加にな
 るような事業を展開したいと考
 えています。また、各農家のお
 米を評価し、付加価値を付ける
 ことで生産意欲が湧いてきま
 す。将来的には、各自治会の集
 落営農組織と連携しながら、過
 疎化による遊休農地を請け負
 い、農家の支援、地区内農地の
 維持などにつなげたい」と話し
 ます。

安心！生活環境

カンパニーでは身近な生活に
 直結する事業に取り組みます。
 その一つが地域交通。東比田地
 区では全域に家屋が広がります
 が、東比田交流センターより東
 は道が狭く、バスの乗り入れが
 困難で公共交通の空白地帯があ
 ります。この解消を目指し、来
 年3月から市のデマンド交通社
 会実験をカンパニーで行う予定
 です。デマンド交通とは、事前
 の予約を受けて自宅〜地区内の
 バス停（比田ではいきいき交流
 館および東比田交流センター）
 の間を輸送する仕組みです。推
 進するカンパニー生活環境部次
 長・川井光昭さんは導入の意義
 を次のように話します。

「現在は多くの人が車を自分
 で運転したり、家族の車に乗
 ったりして表だつた弊害はで
 いていません。ただ、5年後、10年
 後はわかりません。高齢者の免
 許更新も難しくなっており、住
 民の交通確保が困難になる可
 能性があります。カンパニーでデ
 マンド交通を請け負うことは、
 ドライバー確保の重責を負うこ
 とになります。それでもデマン
 ド交通の社会実験を選択したの
 は、将来を見据えてのことです。
 車がなくても安心して暮ら



▲東比田で行われたデマンド交通の説明会。

せる地域にしていいためです。
 また、地域のイベントなどに地
 域運行車両が使用できることも
 大きなメリットです。上手く活
 用し、地域の活性化に役立てた
 い」。

住民が安心して暮らせるよう
 な取り組みも検討しています。
 例えば比田版ハザードマップ。
 行政から提供されているハザ
 ードマップに積雪や過去の災害
 夜間避難時の危険など地域から
 の情報を加えたものを製作。災
 害時の見守りネットワークの構
 築も視野に入れていきます。

また、学習塾のない地域の子
 どもたちに向けて寺子屋の開設
 などを検討します。カンパニー
 では生活の不備を補っていく取
 り組みを考えています。

磨く！地域魅力アップ

地域を盛り上げるイベント企画や、伝統行事の継承なども事業として掲げます。

今年も地区の農園が栽培した夏イチゴの初収穫を祝い、夏イチゴまつりをカンパニーで企画。地区内の住民が集まり出店やイルミネーション、花火などが催され、多くの人でにぎわいました。また、比田のファンを増やそうと9月2・3日は地域の魅力発見イベント「えーひだ見つけ隊」を開催。市外から8人が一泊二日で稲刈りや温泉、交流会を通して、比田の魅力を堪能しました。

地域魅力部部长・渡邊志朗さんは「比田に住む自分たちが、地域を好きじゃないと地域活動は難しい。逆に地域を好きな人



▲えーひだみつけ隊で夏イチゴ体験。

が多ければ、活動の効果は何倍にも広がる。比田が魅力的であることが地区内外に知ってもらえることが重要だと考えています」と話します。

呼び込む！定住推進

定住にも独自で力を入れます。現在、比田版定住パンフレットを作成中。「待っているだけでは人は来ない」と地域でUIターンフェアへの参加や地域内・近隣の職業提供、空家の情報提供なども行う予定です。

さらに地区内の独身男性を対象にした男磨きの場・男塾を10月22日に予定。縁結びのサポートを行います。また、地域内女性で組織する女子会も発足。料理教室やささ巻き作りなどで定期的に集い、つながりを深め、女性の意見を反映させます。

子どもが誕生した家庭へ、出産の祝い品を地域から渡しています。「子どもは地域の宝です。地域も誕生を喜んでいれることを伝えたい。品物は賛同いただいた企業などが協力し、地域内商品券や子ども用品、比田米などを渡しています。子どもを大事にする地域づくりにつなげます」と定住推進部部长・田邊裕子さんは話します。



◀えーひだ女子会の様子。幅広い世代が集まり交流します。
▼子どもの誕生を喜び、地域イベントで祝いの品を渡します。

地域のことは

地域で解決

カンパニーの事業は、できるだけ地域のことは地域内で完結しようという特徴があります。比田を一つの国として考え、比田地域で「できる」または「できそうなこと」をカンパニーが事業化して住民の生活を支えようという考えです。地域の課題



を地域内で解決することで仕事が生まれ、地域間の交流も生まれます。

また、地域内の住民が得意なことに力を発揮してもらえようという体制を組み、事業を推進しています。地域の人々がイベントに出演したりお店を手伝ったりと、さまざまな役割を持つことで地域の一員であることを実感し、地域への想いが育まれていきます。



10年後も 20年後も 「えーひだ」であり続けるために



▲認定こども園比田の園児たち。豊かな比田の田園の中を歩いて金屋子神社へ向かいます。



えーひだカンパニー株式会社
代表取締役
川上義則さん

カンパニーでは自治機能を経営理念として掲げています。地域づくりに住民が関わることでよりよい地域になると考えているからです。

住民とは互いに利益がある存在にしたいです。例えば、カンパニーで比田のお米を買い取り直接販売したり、見かけの悪い野菜を加工食品として売り出したりすれば、地域に活力が生まれ、さらに所得も増えます。そのような手助けをして、地域の可能性を追求するところがカンパニーです。選択肢の一つとして住民に提供し大いに利用してもらいたいのです。利益は地域貢献事業や株主の皆さまへ還元したいと考えています。

設立から地域の皆さんが活動を応援してくれています。株式会社も地域内外の多くの人に

地域の将来を共有し失敗を恐れずに挑戦を

買っていただけでした。この期待に応え、自然豊かな比田を守り、次世代につなげていきたいと考えています。

私たちがカンパニーを起せたのは地域全体を巻き込んで行動することができたからです。地域の人と知恵や発想、技術を出し合い、将来と真剣に向き合いました。そこで未来を共有でき、一歩を踏み出せました。

比田地区の取り組みは決して特別なことではありません。どの地域でもその地域にあった同様なことができま。大切なことは地域へ強い想いを持って挑戦することです。私たちも厳しい現実と向き合う日もあります。しかし、失敗してもそれを糧にした挑戦すれば、明るい将来が描けると信じています。